

令和8年2月1日執行

志布志市長選挙 選挙公報

(この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま写真製版により印刷したものです。)

志布志市選挙管理委員会

市	長
候	補

新たなまちづくり

市民の皆様と共に取り組みます

35年間の民間経験や関西郷土会会长、公民館館長、市議会議員などの
経験を活かし、市民の声に耳を傾け、新たな事業でまちを活性化します。



- 1 有明庁舎にIT専門職大学を設け、経済的負担の軽減や、地元での就業機会をつくる。
- 2 ゴミ処理に悩む世代のために、ゴミ焼却炉設置について前向きに取り組みます。
- 3 子育て世代の産前産後の安心のため、市の運営で助産院を開設します。
- 4 農林水産物の1次産業のさらなる躍進のために、トップセールスを展開します。
- 5 大学や企業と提携し、農業公社に研究所を設けて農産物の改良と外販に取り組みます。
- 6 陸上養殖で若者の就業機会を創造し、安定収入の事業を確立します。
- 7 少子化対策のために「子ども基金」を設けて運用していく、将来的に助成してまいります。
- 8 学力向上に取り組み、未来ある子どもたちの進路選択を大きく広げます。
- 9 高齢者の健康促進のため、フレイル予防のための対策を行います。
- 10 職員の公正な評価と適切な人事を行います。 私なら実行できます

とがり
信
しん
い
ち

下平すみゆきの歴史
志布志町役場職員
33年

国民宿舎 ボルベリアタグリ支配人・商工水産課長・住民生活課長として行政現場を経験

▼
市議会議員
2期8年

3町合併時、市議会議員に当選→3町の議員有志達との連携を深める→市長選に立候補→落選在野にあり市政の在り方を眺む

▼
市長
2期8年

1期目：市役所職員の地域・市民とのコミュニケーション不足を実感、職員の共働改革に取り組む。市の経済発展のためには、ヒト・モノ・カネ・情報の集約と交流拡大による相乗効果をねらい、拠点となる本庁舎を現在地に移転。
2期目：市民が豊かで安心して暮らせるための政策公約を掲げ、96%を実現。行政サービスを円滑にするため、グループ制の導入とデジタル化を推進した

私の新しい55の公約と政策ビジョン

港から広がる産業振興政策で
豊かで稼げる志布志市に。
経済

掲げたお約束を、着実に実行してきました。
引きつづき市民の負託に応え、
必ず実現します!



← QRコードは市長の政策に共感する
市内の有志たちによるInstagramです。

二期目の
公約達成率
96%



骨太の実行力で、市民の暮らしに
に掲げた公約を実現してきました。国・県との信頼関係を確
に、この8年間で数多くの改革を前に進めてきました。
次期は、32年ぶりに改訂された志布志港湾計画を好機と捉え、
産業と雇用を育て、高齢者も若者も、誰ひとり取り残さない
「市民が主役のまちづくり」をさらに進めます。

(昭和24年1月12日生まれ、潤ヶ野小学校、出水中学校、有明高等学校卒)



下平
しもひら
すみゆき

選挙に行こう！

志布志を発展させるのは
市民一人ひとりの前向き
なチカラの総和です。
まずは投票で、まちづくり
に参加しましょう！



下平すみゆき公式 HP ↑
shimohira-shibushi.com

令和8年2月1日執行

志布志市長選挙 選挙公報

(この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま写真製版により印刷したものです。)

志布志市選挙管理委員会

- ⑬ 安心・安全・災害に強い
まちづくり
- ⑫ 美麗なまちづくり
女性市長ならではの
- ⑪ ふるさと納税100億
チャレンジ
- ⑩ 医療福祉の充実
開かれた市政へ
- ⑨ 「聞く力」と「伝える力」で
人生の終わりまで
「市が奇りそう」まちへ
- ⑧ 文化・スポーツ・次世代の育成
- ⑦ 暮らしに身近な行政改革
- ⑥ 暮らしに再生と
観光・物流拠点整備
- ⑤ 志布志港をはじめとする
地域経済の再生と
一次産業の未来
- ④ 地域経済の再生と
観光・物流拠点整備
- ③ 高齢者にやさしい交通と
生活インフラ

13本の柱



市民目線で動かす市政

行政を「外側」から見てきた一市民のくまもとかほこが持つ
「スピード感」「発想力」「決断力」を活かす

物価高騰支援金1世帯50,000円

家計の痛みに真っ先に気づくリーダーとしての政策 苦しい時に支えてこそその市政、市民の生活を守るのは行政の責任

物価が上がって苦しい時に、助けを出すのは当たり前!
生活が立ちゆかなくなつてからでは遅い!だから、今支える!

政策の根拠

- 4年間見聞きした子育て世帯、年金世帯の生活実態
- 食料品価格20,000品目超の値上げに伴う買い控え
- 公共交通の乏しさで車が必須である地域の家庭ほど打撃大
- 国の支援ではカバーしきれない地方の負担を市として独自に支える必要性

なぜ5万円?

- 物価高騰による追加負担額が年間50,000円~70,000円
- 10,000円では「助かった気がしない」息のつける金額
- 財政に無理をかけることのない上限額

なぜ全世帯?

- 物価高騰は所得に関係なくすべての暮らしを直撃している
- 行政コストを減らし、不公平感を生まず、迅速に実行できる

なぜ今?

- 貯蓄を切り崩している家庭、医療、教育、食費を削る家庭の増加
- 今やる支援は、将来の生活保護・医療費増を防ぐ予防の投資である
- 必要な時に、必要な分を、責任をもって支える考え方

困っている人のところへ動く市政

市長専用車を市民共用公用車へ “志布志 支えあいカー”

税金で買った車は、市民の暮らしを
支えるために走らせる

高齢者支援、災害対応、地域活動へ
公用車の話は象徴のひとつ...

私が変えたいのは

「市役所が自分たちのためにある」
という意識。

物価高騰支援も、子育て支援も、高齢者の移動も、農家さんの
支援も、すべて同じ考え方。母親目線で言えば、お母さんは
自分だけいい席に座らないし、いいものも食べない。

困っている子に手を伸ばすもの。

これは市長も同様と考えているため。

「市長は偉い人ではなく
一番先に動く人であるべき」
を実践する

くまもとかほこ



未来あるまち構想ビジョンを描き 子・孫が希望を持ち 将来戻ってきたいと思えるまちを目指します。

行政経験 40年の信頼と実績で即戦力!!

- 市民が困っている生活環境の課題に取り組みます。
- リサイクル分別品目の見直しやゴミ出し困難者への支援に努め、将来に向けたゴミ分別と広域的な焼却施設の在り方を進めます。
- 農・林・水産業の生産基盤強化や生産者視点での支援を進め、商工・観光業など含め産業振興を図り稼ぐ力を引き出します。
- 結婚、妊娠・出産、子育て、教育への切れ目ない支援を進め若者が安心して子育てできる環境の整備を図ります。
- 教育・文化・芸術・スポーツの充実や生涯学習の推進に努め学びのまちを目指します。
- 未曾有の災害に備えた減災・防災対策を進め住民が安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。
- 産直港湾認定や港湾計画改定に沿った志布志港のさらなる発展を図り、行政・民間企業・研究所など連携による宇宙関連新産業の促進を図ります。
- 全ての人に寄り添い安全で安心して暮らせる持続可能なまちを目指す。

プロフィール

- 福岡大学卒業
- 市企画政策課長
- 総務課長
- 副市長
- 市土地開発公社 理事長
- 市農業公社 理事長

主なPTA活動

- 志布志幼稚園 PTA 会長
- 香月小学校 PTA 会長
- 安楽小学校 PTA 会長
- 志布志高等学校 PTA 会長
- 志布志高等学校 松蔭会副会長

武石ゆうじ